

競馬がますます  
楽しくなる

続 ファンにやさしい

# 馬学講座

第41回

## 人間とは異なる 馬の視覚について①

講師

楠瀬良さん

公益社団法人  
日本養蹄協会の  
常務理事



案内人：辻谷秋人  
text by Akihiro Tsujiya

馬の眼球の大きさは  
人間の眼球の倍くらい

今月からのテーマは「馬の視覚」。お話いただくのは、おなじみ公益社団法人

日本養蹄協会の楠瀬良さんだ。

馬の視覚とって思い浮かぶのは、プリンカーやシャドローロールのような視覚を制限する馬具だろう。後ろから来る馬や脚元にできる影を怖がる馬に対して、後ろや脚元を見えなくすることで、恐怖を感じないようにする矯正具だ。また、ゲート入りを嫌がる馬に目隠しをすること、いとも簡単にゲートに入る姿もよく見ることができると。

「私たち人間は視覚を制限されるとむしろ不安になりますが、馬の場合は『見えないものは存在しないもの』と見なすようです。医療現場でも、馬が注射を嫌がったら手で視野を遮ったりします。注射器を見えなくしてしまえば、平気なんです」

見えないことを不安に感じるか、見えないことを「存在しないもの」として受

け入れるか、どうやら視覚から得られる情報の扱いが、人間と馬ではかなり異なっているようなのだ。が、楠瀬さんによれば、馬にとって視覚という感覚がとても重要なものであることは間違いないという。

「馬の眼球は奥行きが40ミリほどありますが、これは人間のものの倍くらい大きさになります。一般に感覚器官の大きさは、その感覚の重要性を示していますから、馬にとっては視覚がとても重要な感覚だと言ったことができます」

馬の眼と人の眼の違いは大きさだけではなく、その構造もずいぶんと違っている。その結果、見え方もかなり違っているのだそうだ。馬の眼には、この世界はどんなふう映っているのだろうか。

### 馬の瞳孔は横長で パノラマ写真のような視野

馬の視覚の大きな特徴としてよく知られているのが、視野の広さだ。人間の視野はせいぜい180度だが、馬が見ることができるとは350度とも言われる。

ほとんど自分の真後ろまで見られることになる。

「馬の眼は顔の真横についているので視野は広くなります。それに加えて馬は瞳孔も横長で、パノラマ写真のような視野を得ているのです」

顔の両側に眼があるのは、馬が被捕食動物で、自分の身を守るために常に周囲に気を配る必要があるからだ。視野を広くし、敵の存在をできるだけ早く察知するためである。一方、捕食動物であるネコ科の動物や猛禽類は顔の正面に眼があるが、これはふたつの眼で同時に見ることで対象との距離を測るためだ。つまり、生きるために広い視野を取るか、距離感を取るかという選択である。

「また、人間は視覚がもつとも敏感な部分で網膜の中心にあります。馬では網膜の辺縁部にあります。これはどういうことかと言うと、視界の端にあるもの、とくに視界の端を動くものに敏感だということですよ」

視界の端に敏感なものも、危険を察知するためだ。狭いながらも存在する死角の周囲はとくに警戒しなければならぬからだ。



眼の位置が、猫(写真右)は顔の正面にあるが、馬(写真左)は顔の横にある。

馬の後ろを横切るな、と言われる。馬の後ろとはつまり視界の端である。そこにいきなり何かが飛び込んできたら、敵かもしれないと馬はびっくりする。びっくりして走り出そうとするから、蹴られる。怪我をする、というわけだ。次回も引き続き、馬の視覚について。色覚あたりの話を中心に紹介していくことにする。